

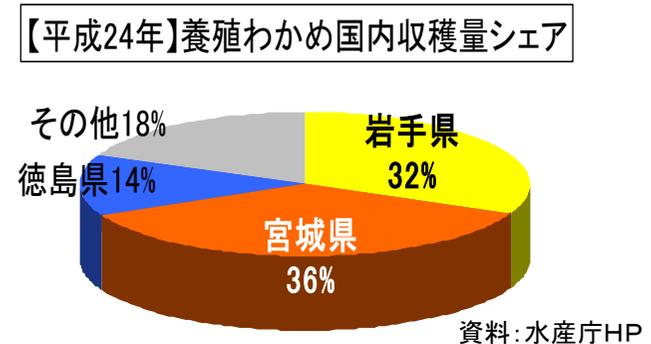
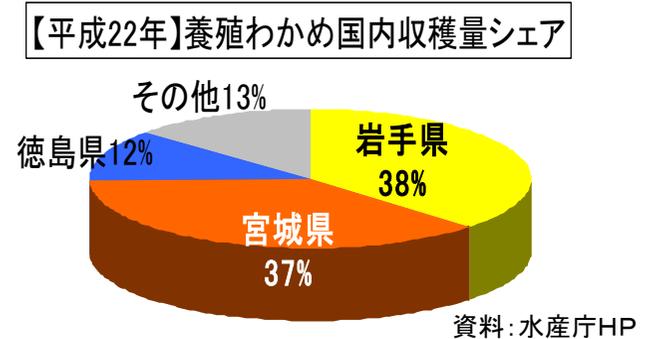
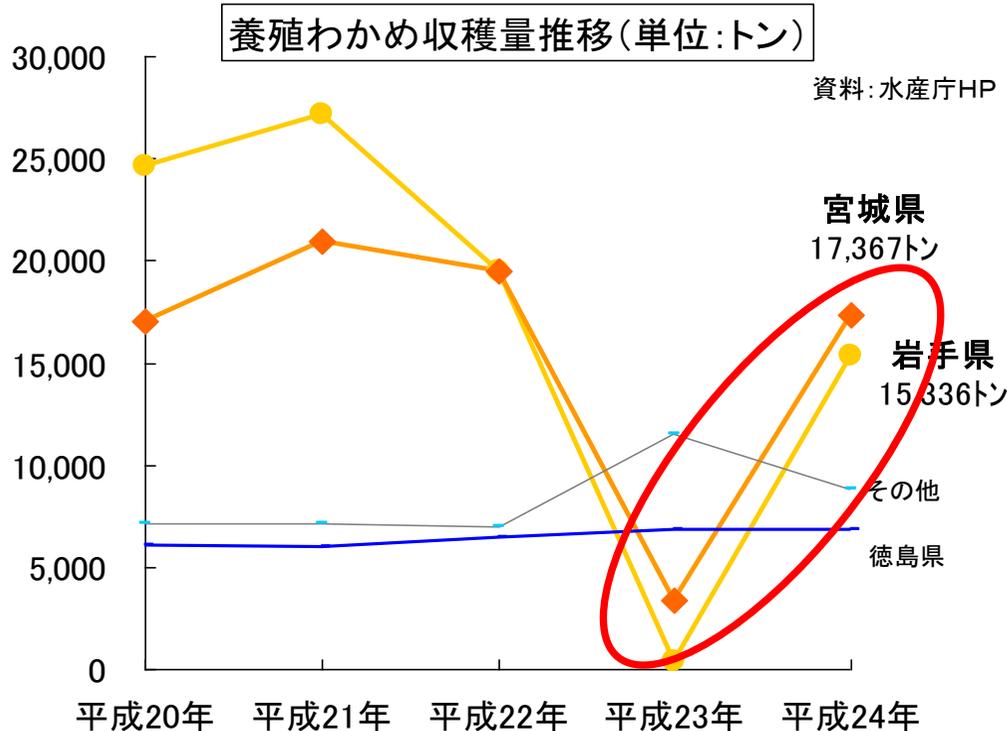


三陸わかめブランドの復活と
地域水産業の復興に向けたトータルソリューション

平成26年3月7日
七十七銀行

1. わかめ養殖業の現状

- 養殖わかめ **国内収穫量の約75%**が三陸沿岸地域(宮城、岩手)
 - **地域の重要な産業**
- 震災の影響
 - わかめ養殖施設(宮城1万9千台、岩手1万2千台)
 - 壊滅的被害から85%復旧



2. 当行が応援した企業の概要

支援企業	A社グループ	
	A社	B社
代表者	C社長	C社長(社長・役員がA社と共通)
所在地	宮城県 S市	宮城県 S市
業種	海藻加工品製造・販売 (カット、パッキング)	養殖業 (種苗生産、養殖、ボイル加工)
資本金	8百万円	3百万円
従業員	13名	6名
法人設立	平成21年12月9日	平成16年9月7日(法人化)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ●小分けパック等の製品出荷により、漁協生産者の販路拡大に貢献 ●震災後、フル稼働状態 	<ul style="list-style-type: none"> ●わかめの種苗等の生産・販売を担い、宮城県内の約4割の種苗を当社が供給 ●「日本一早く採れるわかめ」を収穫し、ボイル加工・塩蔵を行う
	 	 

3. わかめ事業の流れ

● 当日水揚げ、当日ボイル・出荷 【鮮度・品質に高い評価】

A社グループで一貫生産

B社
A社

日本で一番早く刈り採りできます！
わかめの種付けから販売まで一貫生産



1 6月にめかぶの胞子から種付けし9月中旬までタンクで育てます。



2 9月中旬に海出しします。



3 ロープに結んだ枠を浮の浮力で吊り上げます。



4 10月中旬、種付けしたわかめが2cm程まで伸びます。



5 伸びたわかめの糸を切りロープに挟みます。



6 11月上旬50cm程まで伸びます。



7 11月下旬刈り採りできる状態まで育ちます。



8 12月上旬刈り採り開始。生産者の皆様です。



9 工場に入寮する前に手洗い、アルコールで消毒、粘着テープにて髪の毛やごみ等を取り除きます。



10 大きなステンレスのボイラー釜に水を張り75℃～80℃まで沸騰させてから生わかめをボイルします。



11 ボイルしたわかめは角水の入ったタンクにて冷却します。



12 冷えたわかめを砕水の入ったタンクに入れ十分に冷やします。



13 冷えたわかめをカゴに入れ脱水室にて自然脱水をします。



14 脱水されたわかめを製品加工室にて計量します。

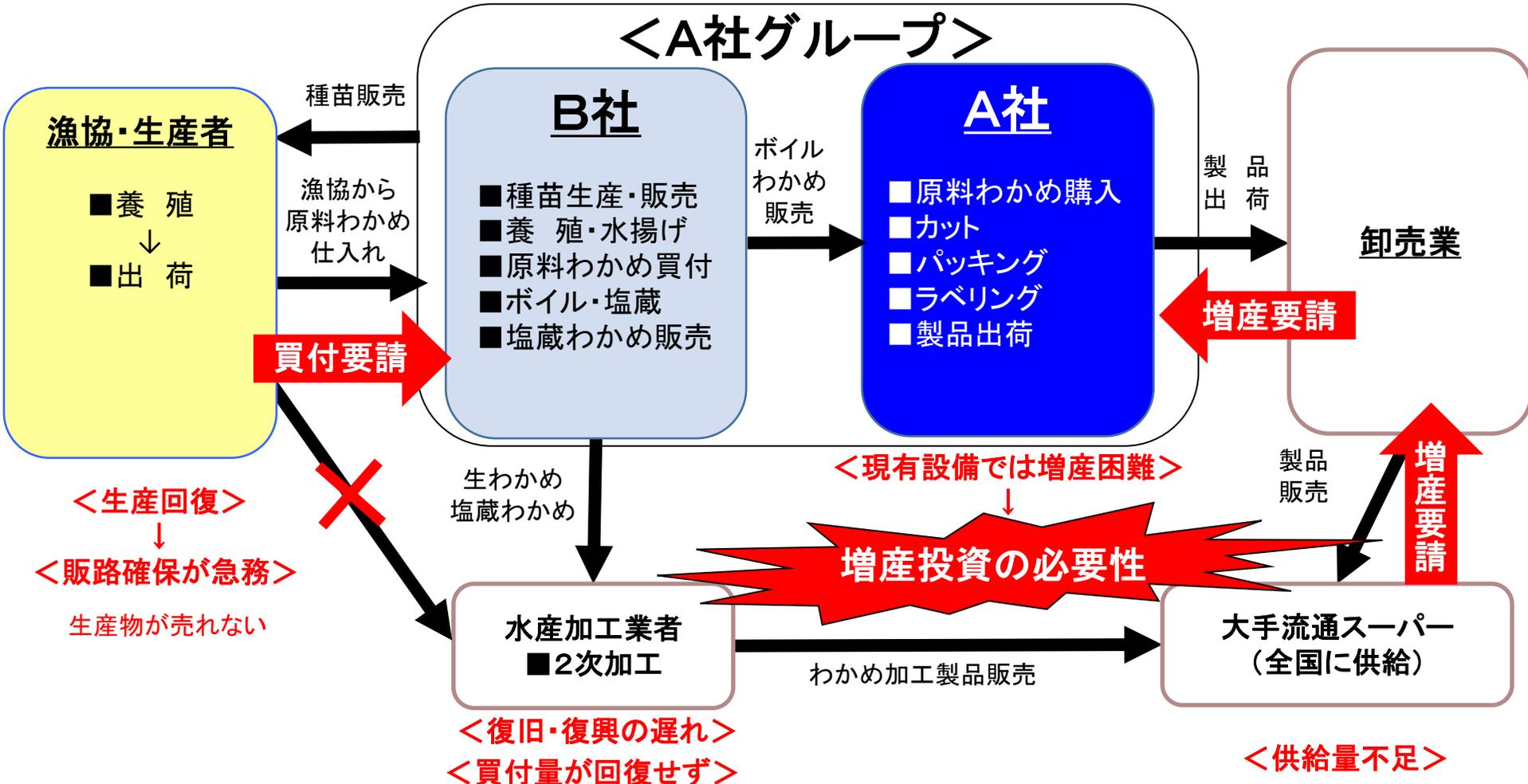


15 計量後、金属探知機を通り梱包室へと抜きスチロールに入れて出荷となります。



茎わかめ

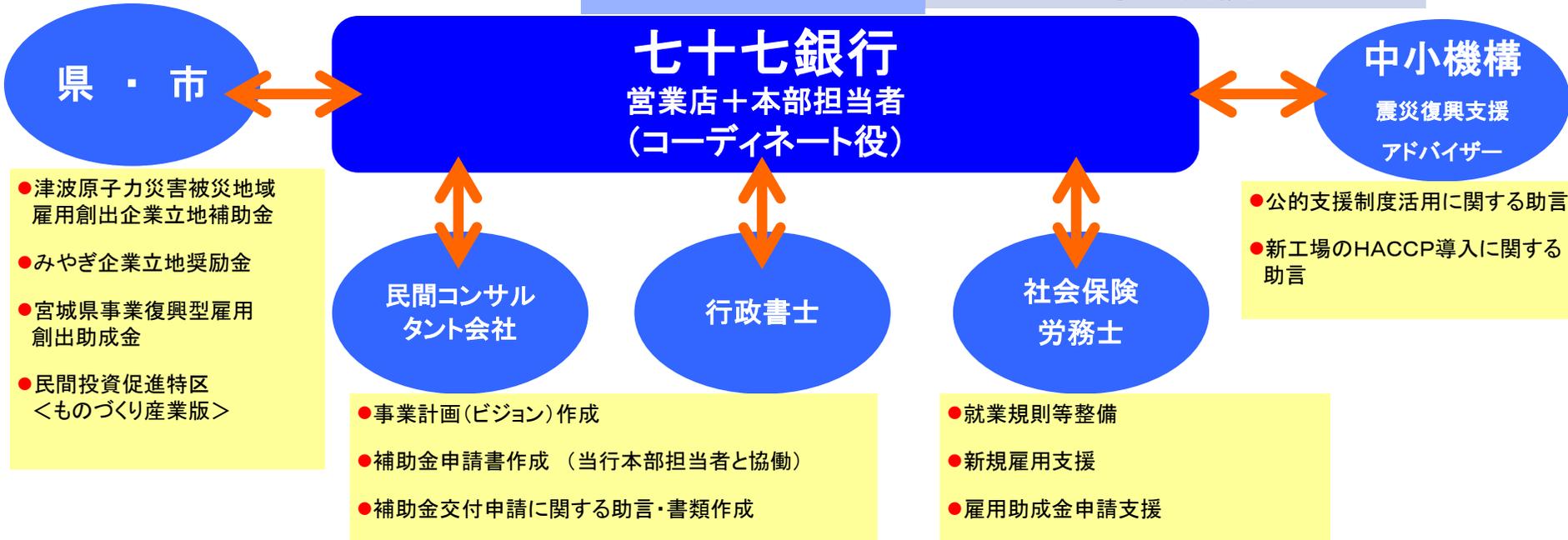
4. 生産販売の流れと震災後の課題



5. 新工場建設に向けた支援スキーム

A社グループ

～営業店、本部、外部専門家が一体となった『トータルソリューションの提供』～



6. 取組みの主な成果

コンサルティング機能の発揮

- 外部専門家と協働
- 新工場の建設支援
- 各種公的支援制度の情報提供と活用提案

金融仲介機能の発揮

- 新規融資の実行
(補助金つなぎ融資、設備資金)

地域の面的再生・復興への貢献

- 三陸ワカメのブランド復活に貢献
- 地域経済活性化と新規雇用の創出に貢献
- 被災沿岸地域・業界特有の課題を認識し、
地域金融機関としての役割を発揮



新工場の様子



7. 新工場の様子



8. 営業店と本部間の情報共有化の取組み

テレビ会議システムの活用

営業店



双方向

コミュニケーション

- 現場・本部がタイムリーに協働
- 融資案件、取引先支援策等の協議

本部



公的支援制度の幅広い周知

- 銀行内における情報発信
(グループ補助金、復興特区利子補給金、ものづくり補助金等)
- 取引先支援の好事例を情報発信(銀行内ニュース等)
- テレビ会議システムを活用したオンデマンドコンテンツの配信

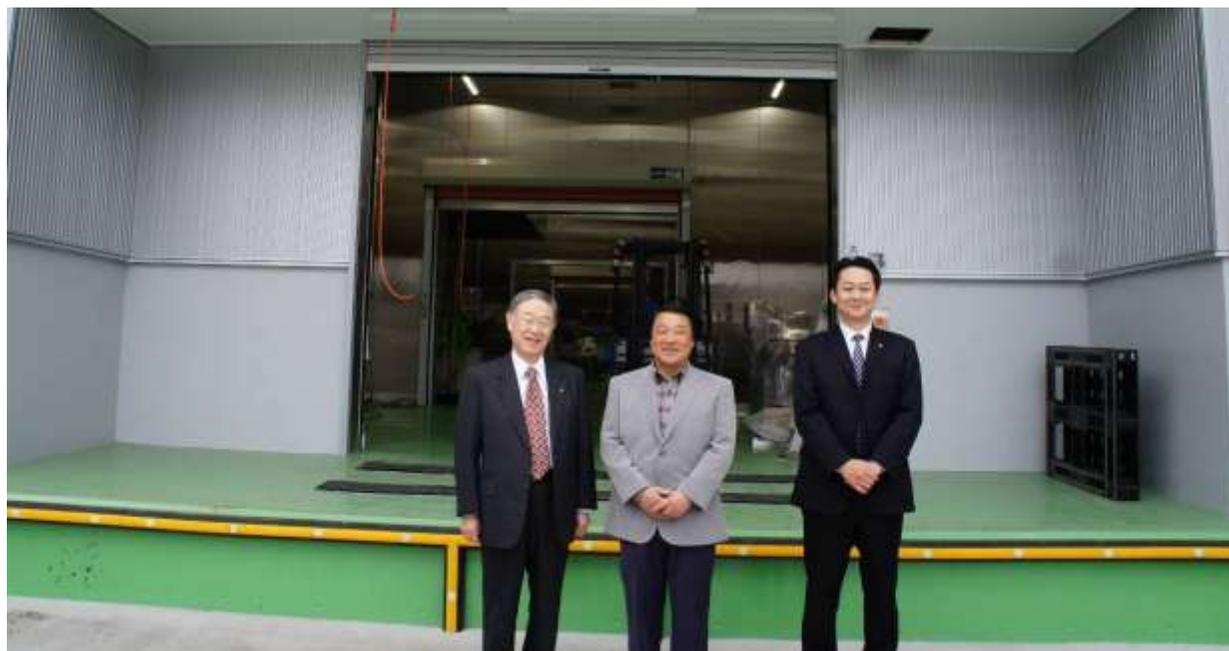
～地道な取組みが好事例に～

現場にアンテナが立つ仕組みが大切

震災復興関連研修会の開催

- 宮城県内各地において、震災復興関連の研修会を開催し、銀行内で情報を共有

ご清聴いただき
ありがとうございました。



七十七銀行